

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



丁寧な作業を行いましょう

茶指導販売課 菊川 響



いよいよ秋本番を迎えます。今月は翌年一番茶の充実に向けた管理が中心になります。特に、秋整枝は翌年一番茶の摘採期や収量・品質を左右する重要な管理になるので、生育状況に適した管理を行ってください。

秋整枝

秋整枝は摘採面をならして芽揃いを均一にしつつ、摘採時に古葉が混入するのを防ぐ目的があります。気象状況に注意し、適期に作業を行いましょう。

時期・10月中下旬（1日の平均気温が**18℃以下**になる頃）

【参考】2023年管内EC気象データ

（平均気温）…10月13日 17・6℃

※整枝時期が早いと暖かい気温の中で再萌芽し、冬の低温によって被害を受けることがあります。近年、暖冬化が進んでいるため、気象状況をよく確認してから整枝を行いましょう。

葉層は**8cm以上**確保し、**三番茶摘採園では摘採面を軽くならず程度**に、**三番茶不摘採園では二番茶の摘採面より4〜6cm上**（**三番茶の葉を2〜3枚残す程度**）の高さで整枝を行いましょう。

病害虫の防除

10月中〜下旬

① 赤焼病

傷口から感染し、落葉などの被害を引き起こします。整枝後や強風を受けたときなどになるべく早いタイミングで防除を行うことが大切です。

② カンザワハダニ

高温・乾燥下で発生数が多くなります。昨年度は気温が例年よりも高く推移したことで多発生した茶園も見られました。越冬個体数が増えると、翌年一番茶期の被害増加に繋がるため注意が必要です。

③ ハマキムシ類

管内では、夏頃から発生数の多い茶園が見られたため注意が必要です。各地区の防除暦や防除情報などを参考に、適期防除を行ってください。